

砺波地方の春を告げる出町子供歌舞伎曳山。出町神明宮の春季祭礼に行われ、豪華な曳山の上に^{しつら}設えた舞台で地元の小学生が歌舞伎芝居を演じます。

曳山に関する一番古い記述は天明9年(1789)ですが、天保年間(1830-1844)に出町に浄瑠璃が伝わったこと、出町の経済的発展により豪商が曳山を造って、支援したことが、子供歌舞伎曳山の発展に結びついたと思われます。

昭和42年に砺波市無形民俗文化財、平成6年には富山県の文化財の指定を受けています。

以前は出町地区の西町・東町・中町の三町の男子小学生のみで演じていましたが、現在は女子も加わり、三町の持ち回りで伝承されています。



よーたか 小夜高

田植えが一段落する6月10日前後を「植え付け盆」と言い、春の繁忙期を終えてちょっと一息^{ひといき}し、体を休めます。この時に、砺波地方では子どもたちが武者絵を描き、手作りした田楽行燈^{でんがくあんどん}（通称：豆腐行燈^{とつべあんどん}）に火を灯し、豊年万作^{ほうねんまんさく}を祈って、村の家々を廻る夜高^{よーたか}という田祭りをを行います。

夕方から夜にかけて小学生が^{あんどん}行燈を手に夜高の歌を歌ったり踊ったりして、豊作を祈願します。また中型の行燈を曳き回す集落もあります。

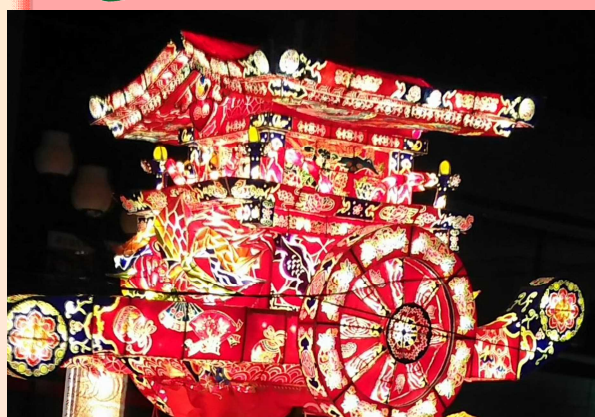


でまちしょうがわ 出町と庄川の夜高

出町・庄川の夜高は、近隣の村々で行っていた田祭りの行燈^{あんどん}が明治・大正期に大型化したものです。

各町内では、毎年、細工や色彩・色調に工夫を凝らして数か月かけて夜高行燈を作ります。夜空に響く夜高太鼓と、明かりを灯した夜高行燈の美しさは見事です。

^{さいきよ}裁許(リーダー)の^{さいはい}采配と勇ましい掛け声に合わせて、行燈をぶつけ合う勇壮な祭りですが、勝敗をつけた後は「シャンシャン」と手打ちをして終えます。



獅子舞

富山県は獅子舞が盛んで、県全体で1000余の獅子舞があるといわれています。砺波地方には大人数が^{どうまく}胴幕に入る百足獅子^{ひみ}（と^{なみ}なみ獅子）と二人が^{アクロバティック}胴幕に入って曲芸的に舞う^{きんぞう}金蔵獅子（通称：ねんごろ獅子）があります。

砺波獅子はテンポよく舞う踊り獅子と、武芸の型が美しいにらみ獅子に大別され、見る人を楽しませます。

砺波市には隣県・隣村からの伝播によって85の獅子舞（休止中も含む）があります。各地区では獅子方若連中や獅子舞保存会などの団体を結成して、獅子舞の伝承、保存に取り組んでいます。

